

「金持ちの議員の問いかけ」

2015年11月06日

ルカによる福音書 18章 18節～23節。ある議員がイエスに、「善い先生、何をすれば永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」と尋ねた。イエスは言われた。「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもない。『姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証するな、父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ。」すると議員は、「そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と言った。これを聞いて、イエスは言われた。「あなたに欠けているものがまだ一つある。持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」しかし、その人はこれを聞いて非常に悲しんだ。大変な金持ちだったからである。

主イエスの所に、一人の人が問いかけてきた。新共同訳ではギリシア語の「アルコーン」という言葉を「ある議員」と訳している。「アルコーン」は「指導者、裁判官、最高法院の議員」とも訳せる。ここでは「最高法院の議員」訳を取ったわけで、その訳から、出来事を読んでいきたい。最高法院は、大祭司を議長とする、71名で構成されるイスラエルの最高議会である。71名の議員たちは、エルサレム神殿の祭儀を司るサドカイ派、民衆に律法を教えるファリサイ派、そして、裕福な地主などの有力者から選ばれた人々である。彼らは最高の家柄、財産、学歴、経歴を持った人々で、民衆から篤い尊敬を受け、かつ、恐れられていた。主イエスに問いかけた議員は良い家柄で多くの財産を持つ有力者ではないか。彼が主イエスの所に来て、「善い先生、何をすれば永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」と尋ねた。すると、主イエスはまず「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもない」と応じている。彼は主イエスが素晴らしい教えを説かれると聞いて、敬意を込めて「善い先生」と呼びかけたのである。それを、善い方は神のみで、私への敬意は不要と、頭から冷水をかけるような返答をしている。次に「『姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証するな、父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ」と言っている。この掟はモーセの十戒で、「永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」という問いに対する答えのようでもある。しかし、主イエスは永遠の命を受けるために、掟（律法）を守れと言ったことはない。案の定、彼は安易に「そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と答えている。裕福な家庭で育ち、律法を厳守し、尊敬され、議員にもなった。しかし、彼の心の中には満たされない空虚感があった。だから、敬意を込めて「永遠の命」について問いかけたのである。主イエスは、彼の身なり振る舞いから、彼の問題の全てを見抜いていたのであろう、厳しく「あなたに欠けているものがまだ一つある。持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい」と言われた。彼は財産を貧しい人々に施し、主イエスに従うことはできないと悲しみながら立ち去った。

主イエスの「全てを捨て、私に従え」という言葉をそのまま受け取る必要はないだろう。主イエスは、あなたは自分の豊かさに自己充足し、隣人と出会ったことがないと言ったのではないか。隣人と出会うことによって、自分の殻が打ち破られ、満たされない空虚感から抜け出て、共に生きる「永遠の命」に与ることができる。彼は地位ある議員として、形式だけを踏襲する安穏な生活に戻っていったのである。（続き）